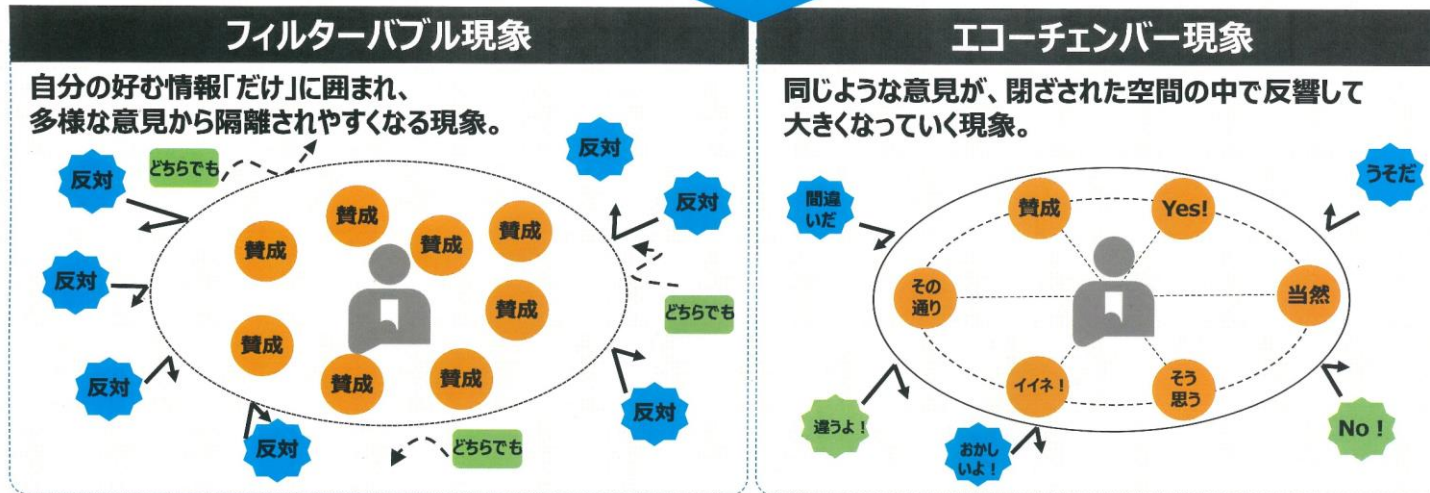


資料1 文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」(ver.1.0) から



3 (2) 2情報モラル教育の充実

…情報の真偽を確かめること（いわゆる**ファクトチェック**）の方法などは**意識的に教える**ことが望ましい。…

※赤字及び太字は原文ママ

資料2 総務省「令和5年 情報通信に関する現状報告の概要」から

図表2-3-1-2 最近のディープフェイクの事例

年	エリア	内容
2021	米国	・娘が所属するチアリーディングのチームメイトをチームから追い出すため、母親がディープフェイク技術を使い、チームメイトのわいせつな画像や動画を作成したとして、逮捕された
	欧州	・ロシアの議員のディープフェイク動画と気づかずに欧州の議員がビデオ電話会議を実施した
2022	世界	・ゼレンスキー大統領がロシアへの降伏について話をする動画がYouTubeに投稿された
	日本	・「Stable Diffusion」が静岡県の台風洪水デマ画像作成に使われ、Twitter上に投稿された
	米国	・画像生成AI「NovelAI Diffusion」が、他者の著作物を無断転載している可能性のあるサイト「Danbooru」の画像をAI学習に用いていた
2023	英国	・合意のないディープフェイクポルノへの反対活動を行う女性のポルノビデオが作成され、Twitter上で公開されていた
	米国	・政治活動家が、バイデン大統領が第三次世界大戦の開始を告げる動画を作成。作成者はAIで作成した旨を説明したが、多くの人が説明をつけないうまま動画を共有した
	米国	・ベリングキャットの創設者が、トランプ前大統領が逮捕される偽画像を「Midjourney」を使用して作成・公表し、Twitter上で拡散された

第2章第3節 1-4 偽・誤情報の拡散

…また、偽・誤情報の流通により社会の分断が生じ、結果として**民主主義社会の危機につながるおそれがある**との指摘もある。

※赤字は東